

4 参考資料

(2) 用語集 五十音順に並んでいます

用語		解説・説明
ア行	アサーション・トレーニング	自分も相手も大切にしたい自己表現の仕方を身に付けていくトレーニングである。自己表現には「非主張的な自己表現」「攻撃的な自己表現」「アサーティブな自己表現」の3つのタイプがあり、3つ目のアサーティブな自己表現（アサーション）が自分も相手も大切にしたいコミュニケーションである。
	AL'S (アルス) の法則	メディエーションに関するプロセスモデルの一つで、カナダのトレバー・コールの3段階モデル“AI's Formula”を参考に、池島(2011)がAL'S (アルス) の法則として提示したものである。AL'S の法則は、メディエーターが提示するルールや心構えで、合意 (Agree)、傾聴 (Listen)、解決 (Solve) の3段階からなる。
	インストラクション (言語的教示)	ソーシャルスキルを学習させようとする前に、対人行動の基本的な心構え（「友達と仲良くしよう」）や対人場面での具体的な振る舞い方（「そこでニコって笑うといいよ」）、対人関係の中で機能している社会的ルール（「順番を守りましょう」）などについて、言葉によって教えることで、子供にソーシャルスキルに対する動機付けを行うものである。
サ行	ソーシャルスキル・トレーニング	ソーシャルスキルとは、人付き合いを円滑に運ぶための様々な行動のことで、学習によって習得されるものである。ソーシャルスキル・トレーニングは、そのスキルを段階的に身に付けさせるものである。学校教育では、集団不適応の予防や、発達障害などの対人関係上の問題の援助などで導入されている。トレーニングの基本的な流れは、「インストラクション→モデリング→リハーサル→フィードバック→定着化」である。
タ行	DESC (デスク) 法	頼み事や交渉事などの「問題解決のためのアサーション」の中で用いられる台詞づくりのための方法である。 D：客観的事実を述べる E：それに対する自分の主観的な気持ちを述べる S：相手への提案をする C：相手の「イエス」や「ノー」の反応に対する対応を準備しておく

ハ行	ピア・サポート	仲間や同僚同士の社会的支援のことである。学校では、教えられる側の子供たちが、自分たち同士で教え合い、助け合うような関係をもつようになることである。ピア・サポートは、思いやりのある学校をつくっていくのに、子供たちがもっている人を思いやる気持ちを有効に活用する活動である。
	ピア・メディエーション	ピア・サポートの活動の一つである。メディエーションとは「調停、仲裁」を意味し、子供同士のトラブルに対して、子供たち同士で解決を図ろうとする活動のことである。
	フィードバック	子供が、インストラクションに従って実行した行動や、モデリングやリハーサルで示した行動に対して、適切である場合にはほめ、不適切である場合には「こうすればもっとよくなる」「うまくするためにはこうすればいい」という肯定的な言い方で修正を加えることである。フィードバックは、子供たちがスキルを実行してみようとする動機を高める機能を果たす。
マ行	メディエーター	メディエーターとは「調停者」「仲裁者」の意味で、対立解消(解決)のために、対立している当事者に対話を重ねさせ、双方が互いに理解できるように関わる人のことである。
	モデリング	教えようとするソーシャルスキルのモデルを示し、それを観察させて、模倣させることである。適切なモデルを見せて、参加者にそのスキルの意味や具体的な展開の仕方を理解させる。
ラ行	リハーサル (繰り返し練習)	インストラクションやモデリングで示した適切なスキルを、実際の行動で何回も繰り返し反復させることである。リハーサルは、ソーシャルスキル・トレーニングの活動の中核であり、ロールプレイが多く用いられる。具体的な現実場面を想定して、同じ行動を改善を加えながら繰り返し練習させ、行動化につなぐことが重要である。
	リフレーミング	心理技法の一つで、物事の見方を肯定的に言い換え意味付けることで、フレーム(物事の見方の枠組み)を変化させ問題解決へと導く技法である。
	ロールプレイング	精神科医モレノによって創始されたサイコドラマ(心理劇)から発展した技法で、現実に近いある場面を設定し、ある役割を自発的・即興的に演じることである。これまでの自分の在り方や相手との関係を振り返り、自分では気付かなかった自己の発見や問題の解決を目的とする。